

はらっぱ

令和6年9月24日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第5号
文責：校長 石澤 友章



運動会へむかって 活動開始！

～仲間と主体的に関わりながら、自分たちで創り上げる運動会～

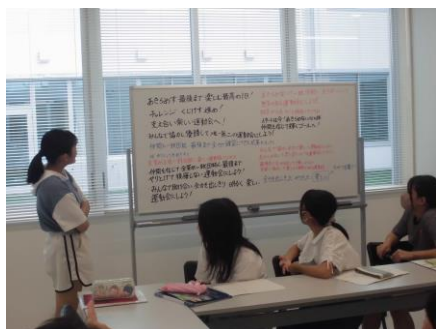
「暑さ寒さも彼岸まで」と言われます。昨年に続くしつこい夏の暑さも、ようやく落ち着いてきたようです。今年度の運動会は10月11日に実施を予定しています。暑さ対策による時期の変更となりましたが、夏休み明けに学校生活のリズムを取り戻したタイミングで、安全な気候のもと運動会を創り上げていくという過程に存分に取り組めるのではないかと考えています。

先日、実行委員と応援団の顔合わせがあり、本格的な児童の準備活動が始まりました。顔合わせ会を担当した先生から「集まった子どもたちの、しっかりと目を見てうなずきながら話を聞く姿に一人一人のやる気を感じました」と聞き、とてもうれしくなりました。

早速、今年の運動会実行委員長である山口実桜さんに、運動会に向けた意気込みを聞いてみました。



私は、1～6年生の一人一人が主役となり「全力を出し切れた」「楽しかった」と思える運動会を目指していきたいです。そのために、実行委員会では、全校児童が一生懸命運動会の練習に取り組む姿を撮影して映像をつくり、運動会前にその映像を皆さんに見てもらうことで、より団結力ややる気を高めてもらえるような活動をしたいと考えています。ぜひ、みなさんの力で感動できるような運動会を創り上げていきましょう。



運動会のような全校を挙げての学校行事は、「人と関わる」「組織の中で自分を発揮する」「自分の願いを実現する」等の「目に見えない学力」の育成が期待できると考えています。学校では、当日の出来栄や結果だけを評価するのではなく、当日までどのように取り組んで行くかという、その準備の過程こそが子どもの育ちにつながると考えています。「出来栄よりも子どもの育ち・結果よりもプロセス」を重視して一人一人が自分の成長を実感できる運動会となるようにしていくつもりです。そのためにも、今年は運動会を担当し

ている体育主任を中心とした教職員チーム内で「運動会のねらいを実現するための教師側の心がけ」を以下の通り確認して取り組んでいます。これからの子どもたちの取り組みの過程をご家庭でも見守り、励ましていただければ幸いです。

①ねらいを明確にした、見通しを持った指導

⇒子どもに任せるところと教師がしっかりと伝えるところを明確にし、子どもの主体的な活動を支える

②子ども同士の関わりが生まれる機会の設定

⇒大規模校のよさを生かした多様な関わりをプログラムや係活動に取り入れる

③密な情報共有

⇒子ども同士、子どもと係の先生、係の先生同士、学年の先生同士、異学年の先生同士等での情報交換を大事にすることで、多様な考え方を尊重し、同じ方向を向いて進めるようにする

たくさんの方の支えの中で ～わくわくぽけっとさんの読み聞かせ～

本校では、「わくわくぽけっと」という読み聞かせボランティアの方々（メンバー15名）が活動してくださっています。今年はロング昼休みに年10回、10月末の読書週間の時には全学級に読み聞かせを計画してくださっています。先日もロング昼休みの5回目の会があり、3・4年生のお話し好きの子どもたちが楽しいひとときを過ごしました。今年度は新しいメンバーが4名も加入したそうです。活動に興味のある方は、ぜひ学校（担当：土岐・中村）までお問い合わせください。



たくさんの方の支えの中で② ～子どもたちの安全を守る～



学校近くの歩道橋が9月17日から補修工事を行うことになりました。当然、通学路を変更することになり、学校そばの一番大きな交差点を、ほとんどの子が複数回横断することとなりました。交通指導員さんに相談してみると、その交差点担当指導員さん2名のままでは、かなり不安であるとのこと。そこで、本校のセーフティーサポーターズの会長さんに相談したところ、「可能な限り協力します」と返事をいただき、登校時に交代で

立っていただくこととなりました。他校では、交通指導員さんの欠員の事例もある中、子どもたちの安全のために協力を惜しまない南沼原地区の地域の皆さんの愛情に感謝するばかりです。

暮らしの知恵と生きる力 ～水を飲めない子どもたち～

先日、都内では「水を飲めない子どもたち」が増えているというニュースにふれました。熱中症の疑いで保健室にきた子どもに水を渡しても「水は嫌い」と言って飲まないのだそうです。「水は味が悪いから苦手」「これまで水を飲んだことがない」という子もいるとのことでした。災害時、飲み物を選ぶ余地などない避難所での生活を想定すると、とても心配な傾向であるという識者もいたようです（そんな状況になったらさすがに飲むような気もしますが）。背景にある事情を断定することはできませんが、①熱中症対策で、スポーツドリンクや経口補水液等が推奨されているから ②コロナ禍に、感染しないように公共の水道から水を飲むことを控えたからなど、様々な理由が語られています。この他にも「都会の水道水は実は危ない」と言ったネット情報に惑わされているという要因も語られていました。「水道水は危険」と言ったこの手の情報の多くは、「だから、浄水器を買いましょう」とか「ウォーターサーバーはいかがですか」という結論に誘導されていくものが多いようです。実に上手に不安を掻き立てられていることが、影響しているのかもしれません。

いずれにしても、発信者の思惑に合わせて編集された情報を過大に受け止めたり、過剰に反応したりして誤った判断をしてしまった事例なのではないかとも考えられます。情報から「知識」を獲得し物知りになることにはもちろん意味はありますが、よりよく生きるための情報を精査・解釈して「知恵」に高めてこそ、生きる力が高まるのだと思います。今夏のオリンピックに見られた残念な SNS による誹謗中傷問題ばかり、あふれる情報の波に流され、結果的に冷静さを失い誰かの意図に載せられて動くのは残念なことに思います。子どもたちがよりよく生きていく力、暮らしの知恵を高めていくには社会はどうあればよいか、学校としてできることは何か、考え続けていきたいと思います。